

図柄案について

～はじめに～

伊達政宗公が仙台の地に華開かせ、時代を重ねる中で仙台から全国へ、そして武士から庶民へと様々な方面へと広がり、定着し、熟成を加えていった"伊達"な文化は、今なお市民に愛され、更なる進化・発展を遂げようとしています。また、今年は政宗公の生誕 450 年の節目の年であり、これを記念した各種行事が開催されるなど、市民の皆様の間でも機運が高まっているところです。これらの状況を踏まえ、政宗公をモチーフとするデザインが仙台ナンバープレートに最も適しているものと考え、昨年認定された日本遺産「政宗が育んだ"伊達"な文化」の構成文化財の中から、特に市民の皆様が親しみを感じ、誇りとする 3 点をベースとした図柄 3 案を作成しました。

	カラー版（寄付が必要）	モノクロ版（寄付が不要）
A 案		
B 案		
C 案		

【A案】「勇ましく歩みを進める政宗公」

概要	"伊達"な文化を象徴する仙台藩歴代藩主所用陣羽織の中でも特に市民に馴染み深く、また現代アートセンスとしても通じる水玉模様陣羽織（江戸時代中期）から着想を得た背景に、政宗公が馬に乗って勇ましく歩みを進める姿を描きました。一見、ポップでカラフルな印象でありながらも伝統的な文化の重みを漂わせるとともに、どんな困難にも打ち勝ち、力強く前を向いて未来に進む仙台市民を政宗公の姿に重ねました。
補足	日本遺産構成文化財：「水玉模様陣羽織」 紫色の地に、五色の丸い模様を配した斬新で華やかな意匠の陣羽織。製作年代は江戸時代中期とされており、後の藩主への"伊達"な文化の広がり の 1 つと言えます。

【B案】「弦月（黒漆五枚胴具足）」

概要	"伊達"な文化の「かっこいい」一面を、政宗公所用の「黒漆五枚胴具足」と伊達家で最も格の高い家紋「三引両紋」により端的に表現しました。一見、モノトーンベースでシンプルでありながらも、金色の光を放つ月形の前立てが際立った存在感を發揮しており、仙台市民が様々な場面で輝きを増しながら活躍している姿を象徴的に表しました。
補足	日本遺産構成文化財：「黒漆五枚胴具足」 金色の細い月形の前立てが印象的な伊達政宗所用の具足。政宗公が志向した重厚かつ華麗な伊達な文化を表しており、"伊達"な文化を代表する 1 つと言えます。

【C案】「豪華絢爛！仙台七夕まつり」

概要	"伊達"な文化の「豪華絢爛」な一面を、風になびいてサラサラと揺れるカラフルな吹き流しにより表現しました。年々、華やかさを増し国内外の観光客を魅了している仙台七夕まつりと、青葉城址から仙台を一望している政宗公の騎馬像を組み合わせました。
補足	日本遺産構成文化財：「仙台七夕」 絢爛豪華で色鮮やかな笹飾りが街中を埋め尽くす仙台を代表するまつり。明治以降に、飾りが豪華になったものであり、庶民への"伊達"な文化の広がり の 1 つと言えます。